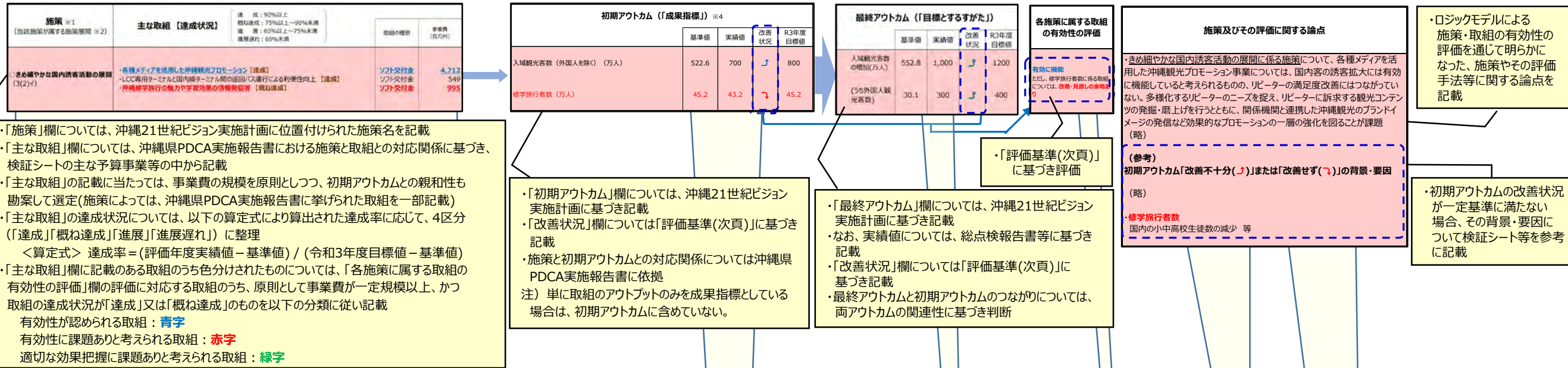


ロジックモデル 記載例

- 沖縄21世紀ビジョン実施計画に位置付けられた**施策展開を12の政策分野に分類**
- 施策展開の上位概念として同じく実施計画に位置付けられている**基本施策の「目標とするすがた」を最終アウトカム、各施策展開にぶら下がる施策の「成果指標」を初期アウトカムとみなし、最終アウトカムとの関連性が強いと考えられる初期アウトカム及び施策について、ロジックモデルで整理**
- このロジックモデルにより、同計画における各施策・取組が、基本施策の「目標とするすがた」に対して**どの程度有効に機能したかについて評価**



施策 ※1 (当該施策が属する施策展開)	主な取組【達成状況】	達成：90%以上 概ね達成：75%以上～90%未満 進捗：60%以上～75%未満 進展遅れ：60%未満	取組の種類	事業費 (百万円)	初期アウトカム【成果指標】 ※3				最終アウトカム【目標とするすがた】				各施策に属する取組の有効性の評価	施策及びその評価に関する論点		
					基準値	実績値	改善状況	R3年度目標値	基準値	実績値	改善状況	R3年度目標値				
交通基盤の整備による観光客の移動の円滑化 (3(2)イ)	国際線及び国内線旅客ターミナルの連絡施設整備やCIQ及び周辺施設の構築【達成】 那覇空港第2滑走路の新設等【達成】 那覇港の更なる大型クルーズ船受入のための岸壁整備等【達成】		国直轄・民間事業	20,505	那覇空港の年間旅客数(万人)	1,423	2,116	↑	2,123	入城観光客数の増加(万人)	552.8	1,000.4	↑	1,200	有効に機能	・きめ細やかな国内誘客活動の展開に係る施策について、各種メディアを活用した沖縄観光プロモーション事業については、国内客の誘客拡大には有効に機能していると考えられるものの、リピーターの満足度改善にはつながっていない。多様化するリピーターのニーズを捉え、リピーターに訴求する観光コンテンツの発掘・磨上げを行うとともに、関係機関と連携した沖縄観光のブランドイメージの発信など効果的なプロモーションの一層の強化を図ることが課題
			国直轄	約207,400の内訳	那覇港の年間旅客数(万人)	59.0	165.7	↑	123.0	外国人観光客数(万人)	30.1	300.0	↑	400.0		
			国直轄	31,908の内訳	クルーズ船寄港回数の(県全体)(回)	112	528	↑	933	海外による入城観光客数(県全体)(人)	116,400	1,123,800	↑	2,000,000		
海外誘客活動の戦略的展開 (3(2)イ)	旅行会社・航空会社と連携した航空路線の拡大や観光プロモーション【達成】 クルーズ船社への誘致活動や旅行会社と連携した商品造成支援等【進展】 外国人受入体制強化(Free Wi-Fiエリアの拡大、長途受入体制整備等)【達成】		ソフト交付金	14,593	沖縄観光のリピーター(沖縄旅行の回数が2回以上の割合)(%)	13.3	21.8	↑	23.5	有効に機能	・スポーツコンベンション推進に係る施策について、初期アウトカムとして類似の指標が設定され、対応する各種の取組との因果関係が不明確。指標の改善状況が異なっていることを考え合わせると、各種取組の一義的な評価が困難であるため、適切に事業効果を把握することができる指標を設定する余地がないか検討が必要					
			ソフト交付金	3,035	1,000人以上のMICE開催件数(件)	85	85	※5	134							
沖縄独自の観光プログラムの創出 (3(2)ア)	多言語による観光案内や通訳サービス、HP等の翻訳費用の支援【進展】 リゾートウェディング等の誘致に向けた国内外でのプロモーションの実施【達成】 医療ツーリズム等の先進事業に取り組む事業者等への支援【達成】		ソフト交付金	1,035	ICCA基準を満たした国際会議の件数(件)	13	12	↔	20	有効に機能	・税制措置(観光地形成促進地域)については、観光客の多様なニーズを捉えた観光関連施設の建設につながっており、これまでの適用実績は少ないものの一定の効果は認められ、また、沖縄特定免税店制度等についても観光客の増加に一定の効果は認められるものの、初期アウトカムが当該税制措置の効果の端的に把握するための適切な指標とは言い難く、最終アウトカムに対する適切な効果把握に課題あり					
			ソフト交付金	366	JCCB基準を満たした国内会議の件数(件)	39	32	↔	50							
マーケティングに基づくプロモーションの展開 大規模MICEを核とした全体的な受入体制の整備 MICEに関わるプレーヤーの育成・確保 (3(2)ウ)	関係事業者との協働開発による沖縄MICEブランドの魅力発信【進展】 大規模MICE施設の整備【進展遅れ】 企業向けのMICE勉強会や県民向けイベントの開催【進展】		単体(一部ソフト交付金)	7,164	スポーツコンベンションの県外・海外参加者数(人)	75,056	71,495	↔	73,000	有効に機能	・税制措置(観光地形成促進地域)については、観光客の多様なニーズを捉えた観光関連施設の建設につながっており、これまでの適用実績は少ないものの一定の効果は認められ、また、沖縄特定免税店制度等についても観光客の増加に一定の効果は認められるものの、初期アウトカムが当該税制措置の効果の端的に把握するための適切な指標とは言い難く、最終アウトカムに対する適切な効果把握に課題あり					
			ソフト交付金	26	スポーツキャンプ・合宿の県外・海外参加者数(人)	6,542	11,649	↑	13,000							
スポーツコンベンションの推進 (3(2)ア)	ゴルフスポーツやアマチュア団体の合宿誘致やスポーツ団体のPR活動・交流イベントの開催【達成】 ゴルフ場のキャンプ開業イベントの実施、ファン感謝祭等を活用した情報発信等【達成】 県外サッカークラブのキャンプ誘致やキャンプ受入市町村の芝環境の整備等【達成】		ソフト交付金	70	入城観光客数(外国人を除く)(万人) ※8	522.6	700.0	↑	800.0	有効に機能	・税制措置(観光地形成促進地域)については、観光客の多様なニーズを捉えた観光関連施設の建設につながっており、これまでの適用実績は少ないものの一定の効果は認められ、また、沖縄特定免税店制度等についても観光客の増加に一定の効果は認められるものの、初期アウトカムが当該税制措置の効果の端的に把握するための適切な指標とは言い難く、最終アウトカムに対する適切な効果把握に課題あり					
			ソフト交付金	429	修学旅行者数(万人)	45.2	43.2	↔	45.2							
きめ細やかな国内誘客活動の展開 (3(2)イ)	各種メディアを活用した沖縄観光プロモーション【達成】 LCC専用ターミナルと国内線ターミナル間の巡回バス運行による利便性向上【達成】 沖縄修学旅行の魅力や学習効果の情報発信等【概ね達成】		ソフト交付金	4,712	入城観光客数(国内外)(万人) ※8	552.8	1,000.4	↑	1,200.0	有効に機能	・税制措置(観光地形成促進地域)については、観光客の多様なニーズを捉えた観光関連施設の建設につながっており、これまでの適用実績は少ないものの一定の効果は認められ、また、沖縄特定免税店制度等についても観光客の増加に一定の効果は認められるものの、初期アウトカムが当該税制措置の効果の端的に把握するための適切な指標とは言い難く、最終アウトカムに対する適切な効果把握に課題あり					
			ソフト交付金	549	国内観光収入 ※8	-	5,376	-	5,783							
税制措置	観光地形成促進地域 沖縄型特定免税店制度 航空機燃料税の軽減措置		国税1件(2百万円) 地方税24件(63百万円)	1,890	国内観光客数(空客)(万人)	-	695	-	794	適切な効果把握に課題あり	・税制措置(観光地形成促進地域)については、観光客の多様なニーズを捉えた観光関連施設の建設につながっており、これまでの適用実績は少ないものの一定の効果は認められ、また、沖縄特定免税店制度等についても観光客の増加に一定の効果は認められるものの、初期アウトカムが当該税制措置の効果の端的に把握するための適切な指標とは言い難く、最終アウトカムに対する適切な効果把握に課題あり					
			適用数額：741千円 返戻額：86.4億円	観光収入(空路国内客)(億円) ※8	-	5,376	-	5,739								

(参考) ロジックモデルにおける各施策に属する取組の有効性に係る評価基準

評価基準		評価			
初期アウトカム(「成果指標」) の改善状況	最終アウトカム(「目標とするすがた」) の改善状況		評価	最終アウトカムが県民意識調査 の場合の評価(※2)	
改善 ↑ (達成率(※1)50%以上)	改善 ↑ (達成率50%以上)	→	① 有効性が認められる取組	有効に機能	一定程度有効に機能
	改善 ↑ (達成率0%以上50%未満)			一定程度有効に機能	
	改善せず ↓ (達成率0%未満)			ただし、最終アウトカムが改善しなかった要因等に留意	
改善 ↑ (達成率20%以上50%未満)	改善 ↑ (達成率0%以上)	→	① 有効性が認められる取組	一定程度有効に機能	一定程度有効に機能
	改善せず ↓ (達成率0%未満)			ただし、最終アウトカムが改善しなかった要因等に留意	
改善不十分 ↑ (達成率0%以上20%未満)	改善 ↑ (達成率0%以上)	→	② 有効性に課題ありと 考えられる取組	改善・見直しの余地あり	改善・見直しの余地あり
	改善せず ↓ (達成率0%未満)			改善・見直しの検討が必要	改善・見直しの検討が必要
改善せず ↓ (達成率0%未満)	改善 ↑ (達成率0%以上)	→	② 有効性に課題ありと 考えられる取組	改善・見直しの検討が必要	
	改善せず ↓ (達成率0%未満)			抜本的な改善・見直しの検討が必要	
(適切に) 設定されていない	改善 ↑ or 改善せず ↓	→	③ 適切な効果把握に課題 ありと考えられる取組	適切な効果把握に課題あり	適切な効果把握に課題あり

(※1) 達成率については原則として以下の式によって算出
達成率 = (実績値 - 基準値) / (目標値 - 基準値)

(※2) 最終アウトカムが県民意識調査の調査値(県民満足度の向上)である場合、施策の効果を的確に捕捉しがたいため、初期アウトカムの改善状況によって評価